

こころの訪問診療所 いこま

「八王子市認知症初期集中 支援事業」について

いこま副所長 今井 正



国は平成24年に「今後の認知症施策の方向性について」を取りまとめましたが、これまで認知症の方が何か危機が発生してからの「事後的な対応」が中心になっていたのを危機の発生を防ぐ「早期・事前的な対応」に基本を変えました。これにより認知症になっても尊厳を持つて質の高い生活を送るという私たちの共通の望みの実現に向けて『認知症の早期発見・早期対応』事業として「認知症初期集中支援チーム」が国、都道府県そして市町村の体制整備支援を受けて活動をしていくことになりました。

八王子市では市内を3つに分けてそれぞれの地域にチームを設置しています。その中で東部、東南部に位置する高齢者あんしん相談支援センター（南大沢、長沼、片倉、堀之内、由木東、大和田）と一緒に活動しているのが、こころの訪問診療所いこまになります。

認知症初期集中支援チームの「初期」は認知症の発病後の最初のステージという意味だけでなく初期段階でなくとも医療や

介護との接触がこれまでなかった方も対象になります。

診療所いこまのチーム員は認知症サポーター医の渡邊院長、精神保健福祉士の山口、斎藤、大野、看護師の花輪、今井が認知症初期集中支援チーム研修を受けてチーム員として登録されています。そのうち現在には主に渡邊院長、山口、今井が1チームになり活動しています。

高齢者あんしん相談センター職員とチーム員で初回訪問を行います。訪問の趣旨を説明させていただいてご本人から同意を取ることから始まり、ご本人やご家族での生活の中での困りごとなどを聞かせていただきながら生活状況などを観察できる範囲で行います。聞き取った内容、訪問して見た内容、事前の情報などからアセスメントを行います。初回訪問後に初回訪問後会議を開催します。この会議には訪問したチーム員以外に認知症サポーター医の渡邊院長、高齢者あんしん相談センター職員、八王子高齢者福祉課包括担当職員が出席します。地域拠点型認知症疾患医療センターの担

当職員の方が出席することもあります。

会議では支援方針、役割担当などが決定されて実際の初期集中支援が開始になります。活動は概ね6か月とされていますが必要性があるときには延長して活動していくことができます。ご家族や近所の方が心配して高齢者あんしん相談センターに相談が入り、高齢者あんしん相談センター職員が介入するが本人に医療が必要な状況かどうか判断に迷うがご本人がなかなか医療につながることが困難な状況なときに認知症初期集中支援チームに依頼が入ることが多くあります。ご本人やご家族との関係づくりを丁寧に行っていくながらその方のこれまでの人生や生活を大切に関わっていくことを心がけています。



グループホーム活用型ショートステイ事業とは、精神障害者の地域移行を促進するために、東京都で実施している都単独の事業です。

1. 精神科病院に入院している精神障害者で病状が安定している方や、地域の受入条件が整えば退院可能であり退院を希望している方に対して、地域生活のイメージ作りのための体験（買い物、炊事、洗濯、掃除等）等を支援し、退院への不安の軽減や退院に向けた動機づけをする。

2. 地域で生活する精神障害者の病状悪化等を未然に防ぐための休息

（東京都福祉局令和5年度グループホーム活用型ショートステイ事業委託事業者の公募ホームページより抜粋）

という2点を目的とした事業で、東京都全体で現在5つの事業所が受託しており、当事業所では平成31年度より受託を開始し、6年目となりました。駒里での利用者層としては、上記1を目的とする方が多数を占め、2については、障害者総合

支援法のサービスである「短期入所」を利用していただくことが多くなっています。事業実績ですが、受託以降、コロナ禍での利用受入れ停止とせざるをえない時期もありながら、少しずつ利用日数も増え、令和5年度は過去最高の利用日数220日稼働率60.1%となりました。

この事業の最大の特徴は、目的にもあるように入院中に地域生活の体験ができる点にあると考えています。これは利用者ご本人のイメージ作りをすると同時に、病院・地域の支援者が、利用者自身の強みや苦手部分がある程度理解し、退院した後の地域生活をどう組み立てていくのかを利用者と一緒に考える一つの材料になり得ます。いわゆるアセスメントなのですが、このアセスメントをより有効に活用するために大切なことは、利用者・入院中の病院・それから駒里を含めた地域の支援者の情報共有や役割分担などを通して、連携を取りながら進めていく事だと思っています。駒里では独自のシートを作成し、利用時ごとに利用目的を確認し、利用終了時は振り返りの時間を取って

います。そして、病院等のスタッフも共有できるようにご本人に持ち帰ってもらっています。シートだけではなく、必要に応じて口頭での共有も実施。さらに、病院で行われるカンファレンスにも積極的に参加するなど、地域移行支援を、他人事ではなく自分事として取り組んでいくことを心掛けて居ます。

また、駒里としてはアセスメントだけが目的とは考えていません。例えば、最初の利用目的として「病院から離れたところでもまず過ごしてみる」を通して、ご本人が地域生活への希望を少しでも持てるようになる、などという流れでも良いのではないのでしょうか。現在入院中の方の地域生活を実現するために、駒里が出来る事があるなら、ぜひ一緒に取組んでいきたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

グループホーム駒里

「グループホーム活用型
ショートステイ事業」について
駒里所長 古明地 さおり

